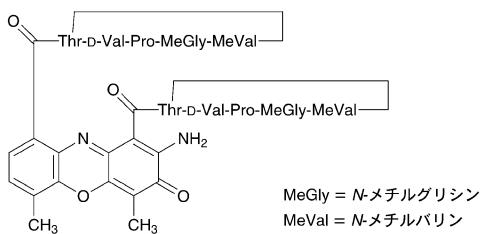


第一部 医薬品各条

アクチノマイシン D

Actinomycin D



C₆₂H₈₆N₁₂O₁₆ : 1255.42

本品は日本抗生物質医薬品基準のアクチノマイシン D の条に適合する。

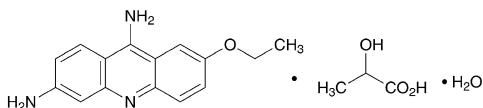
性状 本品はだいだい赤色～赤色の結晶性の粉末である。

本品はメタノール、エタノール(95)又はアセトンに溶けやすく、水又はジエチルエーテルに極めて溶けにくい。

アクリノール

Acrinol

乳酸エタクリジン



C₁₅H₁₅N₃O • C₃H₆O₃ • H₂O : 361.39

2-Ethoxy-6,9-diaminoacridine monolactate monohydrate
[1837-57-6]

本品は定量するとき、アクリノール

(C₁₅H₁₅N₃O • C₃H₆O₃ • H₂O) 99.0 % 以上を含む。

性状 本品は黄色の結晶性の粉末で、においではなく、收れん性の苦味がある。

本品は熱湯に溶けやすく、水にやや溶けにくく、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品の水溶液(1→100)は中性である。

融点：約 245 °C (分解)。

確認試験

- (1) 本品の水溶液(1→40000)は緑色の蛍光を発する。
- (2) 本品の水溶液(1→100)5 mL に亜硝酸ナトリウム試液及び希塩酸2滴ずつを加えるとき、液は暗赤色を呈する。
- (3) 本品の水溶液(1→1000)5 mL にヨウ素試液3滴を加えるとき、濃い青緑色の沈殿を生じ、これにエタノール

(95)を加えるとき、溶ける。

(4) 本品の水溶液(1→100)5 mL に希硫酸5 mLを加えてよく振り混ぜ、室温で約10分間放置した後、ろ過するとき、ろ液は乳酸塩の定性反応を呈する。

純度試験

(1) 塩化物 本品1.0 gに水80 mLを加え、水浴上で加温して溶かし、冷後、水酸化ナトリウム試液10 mL及び水を加えて100 mLとし、よく振り混ぜ30分間放置した後、ろ過し、ろ液40 mLをとり、希硝酸7 mL及び水を加えて50 mLとする。これを検液とし、試験を行う。比較液は0.01 mol/L 塩酸0.30 mLに水酸化ナトリウム試液4 mL、希硝酸7 mL及び水を加えて50 mLとする(0.026 %以下)。

(2) 硫酸塩 本品0.5 gに水20 mLを加え、加熱して溶かし、冷後、希塩酸2 mLを加えてよく振り混ぜ、30分間放置した後、ろ過し、ろ液に塩化バリウム試液3滴を加えるとき、液は変化しない。

(3) アンモニウム 本品0.5 gに水20 mLを加え、加熱して溶かし、冷後、水酸化ナトリウム試液0.5 mLを加えてろ過し、ろ液を煮沸するとき、発生するガスは潤した赤色リトマス紙を青変しない。

(4) 重金属 本品1.0 gをとり、第2法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液2.0 mLを加える(20 ppm以下)。

(5) 振発性脂肪酸 本品0.5 gに水20 mL及び希硫酸5 mLを加え、よく振り混ぜてろ過し、ろ液を加温するとき、揮発性脂肪酸のにおいを発しない。

強熱残分 0.10 % 以下(1 g)。

定量法 本品約0.3 gを精密に量り、100 mLのメスフラスコに入れ、水25 mL、酢酸ナトリウム試液20 mL及び希塩酸1.25 mLを加えて溶かし、更に $\frac{1}{60}$ mol/L 二クロム酸カリウム液50 mLを正確に加え、水を加えて100 mLとし、しばしば振り混ぜて1時間放置した後、ろ過する。初めのろ液20 mLを除き、次のろ液50 mLを正確に量り、ヨウ素瓶に入れ、希硫酸30 mL及びヨウ化カリウム試液6 mLを加え、直ちに密栓し、5分間暗所に放置した後、水50 mLを加え、遊離したヨウ素を0.1 mol/L チオ硫酸ナトリウム液で滴定する(指示薬: デンプン試液3 mL)。同様の方法で空試験を行う。

$$\frac{1}{60} \text{ mol/L 二クロム酸カリウム液 } 1 \text{ mL} \\ = 12.046 \text{ mg C}_{15}\text{H}_{15}\text{N}_3\text{O} \cdot \text{C}_3\text{H}_6\text{O}_3 \cdot \text{H}_2\text{O}$$

貯法

保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。